

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学工学部2年 市橋爽介

今回の浙江大学スプリングスクールへの参加を通して、私の大学における中国語学習に対する姿勢が大きく変わった。派遣前は文法や単語の学習といったインプットのみをしていたため、実際に中国語を話すということがあまり想像できない状態であったが、今回のプログラムの中で実際に中国語を使ったコミュニケーションをしたことで、今の自分がどれ程の中国語を話せるか、今後どのように学習していけば実際に使える中国語を習得できるかが明確になった。今後はこの経験のもと、インプットとアウトプットのバランスのとれた学習を行い、効率よく中国語学習を行っていきたい。

また言語面以外では、プログラム中の生活を通して長い歴史を持つ中国の文化や慣習を味わうことができた上、高度に発達した電子決済をはじめとする先進的な部分に触れることができた。現地ボランティアの学生たちや他の参加者の解説や彼らとの会話を通して普段の講義や生活ではなかなか知ることのできないような歴史の側面を知ることができたのは大変興味深かった。電子決済などの新たな技術に関しても、実際に使っていないと気づかないような長所短所に気づかされる毎日で、今後日本においてどのように導入されていくべきかについて考えさせられた。

海外での経験は今までプログラムへの参加や旅行を通して比較的多くしてきたと思っていたが、中国のように英語がほぼ通じない環境に身をおくことは実はあまり無かったので、貴重なものとなった。中国語を実際に使って生活した、生活できたという経験は自信と今後の学習へのモチベーションとなっている上、今後見知らぬ土地で生活を始める際にも気後れしないような度胸が身についた。

プログラムの内容は浙江大学で他の留学生とともに中国語を学習することが中心となっており、残りの時間で現地ボランティアと共に文化体験や交流をするものだったが、とてもバランスの取れた内容となっており、中国語学習に集中しつつも教室外での活動もたくさん用意されていた。特に印象的だったのは浙江大学農学部の学生との交流で、中国の学生は試験で良い点をとることに固執しているだろうという私の固定観念が覆された。

このプログラムに参加する前は中国への中長期の留学を考えたことさえなかったが、現在はそれも視野に入れて中国語学習を継続している。次に中国に留学する際は、中国語の語学留学ではなく中国語を用いて中国の文化や社会についてより深く学びたいと考えている。